

「わたしのところに来なさい」

1. はじめに

- ・イエスは12弟子を派遣するために、いろいろな注意を与えた。(10章) それを終えて、イエスは一人ガリラヤの町々を福音伝道のために巡られた。
- ・多く的人是福音を受け入れなかったが、受け入れた人もいた。受け入れる人の特質と福音と神との関係を群衆に語る。今回のポイントです。

2. 本文

A. (16~19節) 福音に対する人々の態度 (イエスは群衆に話し出された。7節)

- ・今の時代を何にたとえようか

(17節) 子供の遊びにたとえて

- ・結婚式あそび、 葬式あそび (ごっこ)

(18~19節) ・バプテスマのヨハネ—神の道を整える (人の心を神に向ける)

- ・イエス—罪人を招く
- ・バプテスマのヨハネもイエスも神が導いた道であった。それが「知恵の正しいことは、その行いが証明します」(19節) ということです。

B. (20~24節) 悔い改めなかった町々を責め始められた

- ・コラジン、ベッサイダ
- ・カペナウム (イエスの福音伝道の拠点) 一大商業都市 (高慢と偶像礼拝)
- ・強調表現である。そして悲しみの表現である—カペナウム、どうして天に上げられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。

C. (25~27節) 福音を受け入れる者

- ・賢い者、知恵ある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。(25節)
- ・すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。(27節)
 - ・父だけが子を知る
 - ・イエスとクリスチャンだけが父を知る

D. (28~30節) (わたしとは、こういうものですから) わたしのところに来なさい (28節)

- ・目的 : あなたがたを休ませてあげます。(28節)
- ・28節の説明 (詳しく)
 - ・わたしは心優しく、へりくだっているから (29節)
 - ・①わたしのくびきを負って
 - ・②わたしから学びなさい
- ・目的 : そうすればたましいに安らぎが来ます。

3. おわりに

- ・自己中心から主に従うことへの意識の転換の重要性。(クリスチャンも同じ)
- ・自己中心とは何ですか。対立概念がないから自己中心にならざるをえないだけです。しかし神がいる。イエスがいる、私を超える存在の方が在るということは、人生が変わります。学び、交りという基本的なことは、緑福音にとって今後重要なこととなるでしょう。